

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊	VOL. 67
発行日	令和5年2月1日
発行責任者	夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ	044-588-4030
飼育展示数	哺乳類:23種156点 鳥類:22種73点 爬虫類:10種101点 (令和5年1月末日現在)

最近の動物公園

最近の動物たちの様子です。寒いので屋内に入りっぱなしの動物もいますが、気持ちよさそうに日向ぼっこする動物の姿も見られます。



クラウドファンディングにご協力いただきありがとうございました



令和4年9月1日から11月29日まで医療機器の充実等を目的としたクラウドファンディングに挑戦しておりました。たくさんのご支援本当にありがとうございました。

おかげさまで、手術機材や検査の機械などを充実させることができそうです。これらを駆使して動物たちの健康維持に努めていきます。重ね重ね、本当にありがとうございました。



*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。

★ピックアップ動物★

ロバ 哺乳綱 奇蹄目 ウマ科

アフリカノロバを家畜化した種で、地域によって荷物の運搬、乗用、食用、乳用などとして古来よりヒトの生活に関わってきました。

夢見ヶ崎動物公園のロバのカグヤはメス、2002年生まれの20歳です。2015年に同居していたオスのドンが死亡してから単独飼育しています。その頃から、ややきつかった性格が少し丸くなり、飼育担当に甘えたり、餌が欲しい・部屋に入れてほしいなどの主張を鳴いて行ったりするようになりました。耳の中や首筋、腰、大腿の裏側などを掻いてやるととても喜びます。わがままを通そうとすることはありますが、攻撃的になることはほとんどありません。それは人間に対してだけでなく、巣材集めやイタズラで毛を抜きに来るカラスに対しても同様で、人が気付いて追い払いに行くまでそのままということもしばしばですが、頭の良い動物なので、たくさん毛の抜ける換毛期はカグヤもわかっていてあえて抜かせているのかもしれない。

血液検査の際には少量の野菜などで気を逸らしながら行うのですが、針を刺す一瞬の「チクリ」にまったくの無反応で野菜に夢中になってくれるので、獣医も飼育担当も大助かりです。



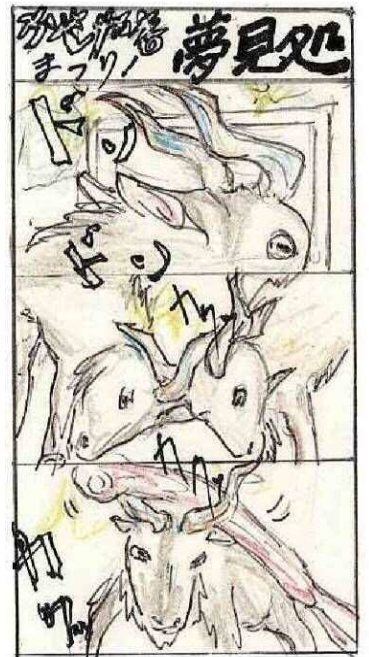
獣医の日記

11月の末、今年生まれのマーコールの子どもが群れの成獣とのトラブルで足を骨折してしまいました。骨折は部位や程度によっては自然治癒することもあります。今回は左前肢、ヒトでいうと肘と手首の間の橈骨と尺骨という2本の骨が完全に折れ、しかもかなりずれてしまったので外科手術に踏み切りました。

手術は骨折で離れてしまった骨同士をもとの形に戻し、金属製のプレートとワイヤーを使い、その形のまま動かないよう固定します。それだけでは不十分なので包帯や金属製の板などで足の外側からも固定しました。そして安静にしてくれていればよいのですが、言い聞かせたところで言葉は通じないので、暴れないようなるべく刺激を与えず、清掃給餌の仕方にも気を使いました。

若い個体の自然治癒力の高さはこれまでもしばしば目にできてよくわかっていたつもりでしたが、入院させたバックヤードの個室でもしばしばひとりで跳ね回っており、これでよく骨がくっついたな…というのが正直な感想です。

1ヶ月半ほどですっかり良くなり退院はできたものの、その間群れから離れていたためよそ者扱いされ追いまわされてしまったので、今はマーコール舎の寝室からお見合いをしており、段階を踏んで群れに戻していきたいところです。



★動物たちの主な移動(令和4年11月1日～令和5年1月31日)★

ミーアキャット(♂1死亡)、フンボルトペンギン(♂1死亡)、ポリビアリスザル(♂1死亡)、テンジクネズミ(♂1死亡)